

人事 Lab ヒトコトラボ

Vol.12 ～シゴチカありますか？～

株式会社静岡新聞社 柴拓巳

プロフィール：2021年新卒で入社した社会人3年目。Uターン就職組。地域ビジネス推進局生活情報部に所属し、新卒・Future企画に携わる。高校時代はバレー部に所属。身長186cmなのにポジションはセッター…。夏はサッカー場・冬はスキー場によく出没する。



3月1日といえば！そう！新卒採用の広報活動解禁日です。

採用担当の皆様はまさに今、個別説明会や選考会の準備・開催にお忙しい日々を送っておられると思います。

まだまだ寒い日が続いておりますので、お体に気を付けてお過ごしください。

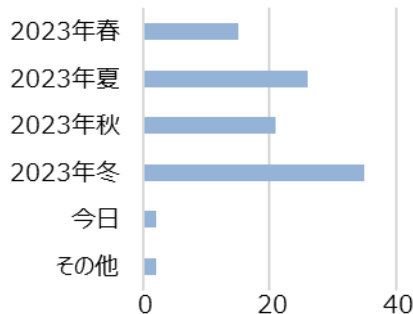
さて、本号では気になる2025卒の県内学生の動きについてお伝えしたいと思います。

～ 就活は早期化している？ ～

2022年6月の「三省合意」では、インターンシップで得た学生情報を採用活動に利用することを認めるルールに変更されました。その結果、学生の就活がより早期化するのではという予測がありました。

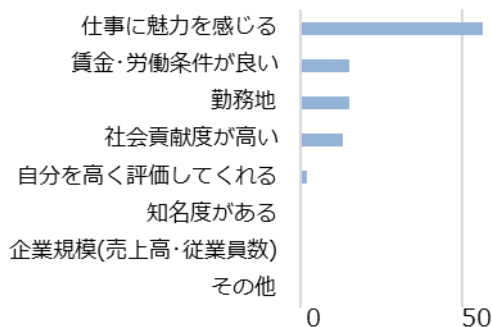
右のグラフは本年3月1日に当社が開催した合同企業説明会の学生アンケートです。これを見ると「23年冬から就活を始めた学生」が最も多いという結果であり、少なくとも3月合説に参加する学生の多くは、以前と変わらないスケジュールで活動していることが分かります。一方で特筆すべきは、23年春から就活を始めた学生が15%であった点です。就活の早期化/長期化の動きが県内でも目立ってきており、2026卒以降の学生の動きに注視したいところです。

【就職活動を始めた時期】



「静岡新聞社主催 合同企業説明会
(24年3月開催) 学生アンケートより」

【就職先を決める上で大切にすること】



～ 自分は何者？どんなキャリアを歩みたい？ ～

この時期になると、就活中の学生から多くの相談を受けます。

「自分が何に向いているか分からない」「地元就職が県外か」といった自身のキャリア観（就活軸と呼称されることも）の悩みや「エントリーシートの書き方」「ガクチカ※学生時代にチカラを入れたこと がない」といった内定を得るテクニツ的な悩み等々。

このような悩みを学生から相談されたら、経営者や採用担当の皆様はどのような接し方をされますか？とある企業では、自社の説明は簡素に、時間の多くを学生の就活相談に割いていると聞きました。学生に「寄り添う」ことも採用活動をするうえで重要なことなのかもしれません。

そんな悩み多き学生が、就職先を決める上で一番大切にすることとして「仕事に魅力を感じる」という結果がアンケートで出ています。労働条件や福利厚生よりも「自分が入社したら実際に行う仕事」に興味を持てるかどうかを入社の決め手にする学生がダントツに多いようです。

ところで、皆様の「シゴチカ ※仕事でチカラを入れている（た）こと」は何でしょうか？いきなり言われても…難しいですね。しかし、現在の就活/採用市場では、働く先輩の『シゴチカ』は非常に重要な要素となっています。学生対し自分の仕事観を堂々と語れることこそ、「その会社で働く魅力」が伝わる最たる手段なのではないでしょうか。

静岡新聞社はこういった視点を軸に据えた新サービス『しずおか仕事図鑑』を昨年よりスタートしました！ぜひご活用下さい。

お問い合わせ：静岡新聞社 地域ビジネス推進局 生活情報部
しずおか仕事図鑑編集室 ☎054-284-9018


しずおか仕事図鑑



サイトはこちらから